



伝えたい私たちのメッセージ

11/29



第 20回対馬少年の主張大会が豊玉町の対馬市公会堂で行われました。市内の中学校から12人の生徒が参加し、西部中学校2年の柴田龍成さん（写真左）が、最優秀賞を受賞しました。（次ページに作品を掲載）また、同大会は社会を明るくする運動長崎県弁論大会の予選会を兼ねており、佐須中学校2年の手束舞柚さん（写真右）が対馬市保護士会会長賞を受賞し、対馬市代表に選ばれました。

対馬の宝を発信

12/3



行 政と協力して情報を収集・発掘しその情報を広く紹介する、九州探検隊アンバサダーの認定式が、株式会社博多大丸と対馬市との間で行われました。対馬の特産品や工芸品・文化など「モノ・コト」を行政と一緒に発掘し、紹介していただきます。

大迫力のフルオーケストラ

12/7



子 どものための文化芸術体験機会の創出事業として、九州交響楽団のコンサートが対馬市公会堂で行われました。南小、小綱小、乙宮小、豊玉小の児童達が、日本最高級の演奏に触れ、貴重な時間を過ごしました。

海の玄関口がオープン

12/12



厳 原港離島ターミナルの供用式が行われました。中村法道長崎県知事や古賀友一郎参議院議員、比田勝尚喜対馬市長の挨拶の後、テープカットが行われ、対馬の新たな海の玄関口として運用がスタートしました。

対馬の手作りが集まる すてきなマルシェ

12/12



つ しまるしえ2020がシャインドーム峰で開催されました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため事前予約制で来場者を制限して行われましたが、多くの市民が対馬のフードやハンドメイド雑貨などを手に取り購入していました。

第二のふるさと

西部中学校2年 柴田 龍成



「はぁ?対馬ってどこ?離島留学?何それ?そんなの行きたくない」

対馬に離島留学に来てもうすぐ二年。

あの頃の僕は友達が少なく、一人で図書館に行ったり、家で過ごしたりして、外でみんなと遊ぶことが少なかった。学校でも先生の言うことを聞かず、親が学校に呼ばれることも度々あった。そんな時、母がサイトで見つけた対馬の離島留学のホームページ。全く知らない場所で、知らない人と生活するなんて考えられなかった。でも、僕の心の片隅には「今のこの生活を変えたい」という気持ちもあった。

小学六年生の夏。僕は離島留学体験に参加することにした。初めての対馬。そこは僕の住んでいた所と違い、自然に囲まれた居心地のよい場所だった。自然だけでなく、迎えてくれた対馬の方々も笑顔で優しく、温かく接してくれ、僕は安心感を覚えた。

「ここなら、今の自分の生活を変えられるかもしれない」そう思った僕は離島留学を決めた。

初めて対馬に来た日、僕は他の離島留学生二人と一緒に里親さんに迎えられた。里親さんは僕らを温かく迎えてくれた。里親さんとの生活の中で、それまでと一番変わったのは、ほぼ毎日みんなで揃って食事をする事だ。そんなこと?と思うかもしれないが、実家では親の仕事の関係で、みんなで揃って食事をするのは休みの日ぐらいだった。食事をしながら、その日学校であったことを聞いてくれたり、相談にのってくれたりする。食事のマナーや挨拶なども教えられた。時には厳しいこともあるが、それは僕たちのことを第一に考えてくれているからだ。何の繋がりもない僕たちを、自分の子どものように育ててくださることを感謝している。本当にありがとうございます。

学校生活も対馬に来て大きく変わった。僕の通う西部中学校は全校生徒約三十名の小さな学校。僕の学年は十一名。友達が少なかった僕は学校になじめるか、友達ができるのか不安しかなかった。しかし、同級生はもちろん、先輩方、先生方もこんな僕を優しく温かく受け入れてくれた。僕が困っていると声をかけてくれる。みんな自分のことだけでなく周りの人のことを考えている。今の僕には一緒に運動したり、遊んだりする仲間がいる。本当に嬉しくて、西部中で良かったと心から思える。今までなら考えられないような経験や挑戦もたくさんした。その中でも、僕にとって一番の挑戦は、今年の駅伝大会で選手としてタスキを繋いだことだ。全校での駅伝練習は時にはきつく、やめたいと思うことが何度もあった。たぶん前の僕ならやめていた。

でも、もう駄目だと思った時、「龍成なら、いける!」みんなのその声が僕を勇気づけ、頑張らせてくれた。僕が諦めず最後まで走り抜けることができたの

は、支えてくれた周りの方々のおかげだ。こんな経験ができ、こんな気持ちになれたのも対馬に来れたおかげだ。

帰省した時、家族や周りの人たちから、「龍成君、変わったよね」とよく言われる。自分でもそう思う。僕は変わった。

まず、積極的になった。何事にも挑戦してみようと前向きになった。学級委員に立候補するなんて前の僕には考えられない。そして、人に対する接し方や物事への捉え方が変わった。助け合い、協力することの楽しさや喜びを感じるようになった。人との繋がりの中で挨拶や礼儀が大切であることを知った。自分のことだけでなく、周りのことも考えるようになった。いろんな方々の支えがあって、今の僕がいる。大げさかもしれないが、「感謝」という気持ちを心で感じる事ができるようになった気がする。

これはすべて、この対馬で過ごした時間、経験のおかげだ。環境を変えることや変化することは、不安で勇気のいることだ。

それがすべていい方向に向かうとは限らない。でも、やってみなければわからないし、自分が求め、決めたことならば、良い方向へ向かう確率の方が高いと僕は思う。

僕は、今の学年が終わるときに対馬を離れる。本当は西部中でみんなと一緒に卒業したい。でも、自分の進路を考えた時に、希望する進路に進むためには、地元に戻るほうがよいと考え決心した。こんなふうにも、自分の将来を考え、自分で決断できるようになったのも、僕が変わったからだと思う。

僕を成長させ、支えてくれた第二のふるさと。この場所を離れても、僕は変わり続ける。

※原文のまま掲載

第20回対馬少年の主張大会結果

最優秀	西部中2年	柴田 龍成
優 秀	佐須奈中2年	糸瀨 陽菜
優 良	大船越中2年	犬束 美友
入 選	雞知中2年	白下部 花
入 選	厳原中1年	竹中 琴美
入 選	仁田中2年	桂 誉予
入 選	豆酸中2年	山田 愛藍
入 選	佐須中2年	手束 舞袖
入 選	久田中2年	徳永 詩季
入 選	比田勝中2年	財部 幸和
入 選	東部中1年	一宮 響
入 選	豊玉中2年	平間 悠之介

(敬称略)

絆をつないで対馬縦断



12月20日、比田勝港国際ターミナル前をスタートし、厳原町西浜までの88.8kmを13人で襷リレーする「第60回対馬縦断駅伝大会」が開催されました。団体の部では陸上自衛隊が35連覇、町体協の部では豊玉町が5連覇、女子の部では美津島町が8連覇でそれぞれ優勝の栄冠に輝きました。結果は以下のとおりです。



【町体協】1位：豊玉町 2位：美津島町 3位：上県町

【団 体】1位：陸上自衛隊 2位：市消防本部 3位：航空自衛隊

【女 子】1位：美津島町 2位：豊玉町 3位：厳原町

【躍進賞】男子の部：上対馬町 女子の部：厳原町

(前年度の記録を最も短縮したチーム)

【区間賞】★は区間新

(敬称略)

区 間	所 属	氏 名	記 録
1区 比田勝～佐須奈 10.4km	市消防本部	築城 尊弘	34分42
2区 佐須奈～佐護 7.6km	陸上自衛隊	川崎 流我	27分01
3区 佐護～樫滝 9.8km	陸上自衛隊	大久保 拓也	31分59
4区 樫滝～三根 12.0km	陸上自衛隊	早田 太一	38分06
5区 三根～白嶽 2.5km	豊玉町	小宮 碧	9分03
6区 白嶽～吉田 2.1km	美津島町	田中 ひより	6分58
7区 吉田～田 2.7km	上県町	糸瀬 陽菜	10分37
8区 田～長田 2.5km	美津島町	吉野 涼菜	9分06
9区 長田～仁位 2.5km	美津島町	田中 陽菜	8分44
10区 仁位～浦底 6.0km	陸上自衛隊	茂 将臣	20分35
11区 浦底～玉調 10.6km	市消防本部	波田 一徹	34分07
12区 玉調～雞知 8.7km	陸上自衛隊	阿比留 聖	30分44
13区 雞知～厳原 11.4km	陸上自衛隊	阿比留 和弘	★35分15



対馬縦断駅伝大会 対馬縦断駅伝大会

祝

白寿
おめでとうございます

99歳を迎えられた方々に市から褒状とお祝い金を贈呈し、長寿をお祝いしました。これからもお元気で過ごしてください。



釜屋 ミサヲさん(厳原町)
大正10年12月7日生まれ



小宮 千代子さん(厳原町)
大正10年12月25日生まれ